

平成27年度 学校評価中間報告

小松市立 今江小 学校

	自己評価					学校関係者評価 学校関係者評価者による意見	今後の方向性 (改善計画等)
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況		
① 組織的な学校運営	＜人材育成＞	【成果指標】	職員が学校運営への参画意識	各自が担当分掌の仕事を持って取り組むことはもちろん、各主任が自覚を持って分掌を運営している中で、学校全体が組織的に動くことができている。	A	<p>企画委員会において、学校の課題や今年度重点的に取り組む内容について共通理解を図りながら、教育活動を一層充実させ、学校経営ビジョンの具現化を図っていく。</p> <p>今後もいじめの未然防止のため、親和的な学級づくりを努めるとともに、早期発見・迅速的確な組織的対応が行えるよう、研修等を充実させていく。</p> <p>「学ぶ教師集団」としての取組の継続。その研修の成果を児童に生かす。学校研究の確認や児童の学習規律・学習集団づくりに向けての取り組みの共通理解・共通行動に努める。</p>	
	主任等を中心に、教員の専門性と同僚性を活かし、協働する学校作りをめざす。	主任等のリーダーシップのもとで、各分掌が組織的に運営されている。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満				
	＜いじめ・不登校対応＞	【努力目標】	未然防止策の実施、組織的な問題対応	未然防止のため、日頃の学習活動やグループエンカウンター等を通して人間関係づくりに努めている。また、いじめアンケートの実施直後の面談や、校長への「報告・連絡・相談」の徹底など、早期発見および迅速的確な組織的対応を行っている。	A		
	教員個々の安全意識や危機管理能力を高め、いじめ等に組織的に迅速的確に対応する。	いじめ基本方針に基づき、未然防止、早期発見し、問題等には適切な対応ができています。	A：迅速的確に対応が行われている。 B：対応している。 C：対応に問題がある。 D：対応できていない。				
	＜教師の指導力の向上＞	【成果指標】	教師の研修・研究への意欲	教職員アンケートからは、日常的なOJTも含め、授業力・指導力を高めるための校内・校外の研修への積極的な参加、その啓発等、意欲的な「学ぶ教師集団」としての姿が見られる。	A		
教員研修と学校研究の充実により、教師の人間力・授業力の向上を図る。 【学びの指針11条】	意欲的に研修や研究に取り組み、自己の授業力や指導力の向上につなげている。	A：「学びの集団」になっている B：研修や研究への意欲が高い C：研修や研究への意欲はある D：意欲が低く向上が見られない					
② 確かな学力の育成	＜「わかる・できる」授業＞	【満足度指標】	児童の授業への満足度	教職員は、教材研究を通してねらいを明確にした授業づくりに努めている。児童の満足度にも反映されており、「よくあてはまる」「ややあてはまる」とした児童が、94%であった。保護者アンケートでも、「学校は分かる学習指導に取り組んでいる」が99%であり、学校、児童、保護者共に意識は同じ。	A	<p>「わかった」「できた」がさらに感じられるように、1時間のタイムマネージメントを意識し、まともめふり返りを大切にした授業づくりに努めていく。</p> <p>1学期の取り組みの検証(チェックリスト)と今年度の分析・考察・対策を確認し、2学期以降実施していく。各学年の取り組みの中で、小松市の学力向上アプローチ(過去問題プリント)の効果的な活用や個別の支援体制の確立も検討課題である。</p> <p>今後も、図書館司書と連携し、授業をはじめ、委員会活動や行事など様々な機会をとらえ、読書の推奨をしていく。また、毎月月中旬には、特に冊数の少ない児童への声かけを行っている。</p>	
	ねらいを明確にした「わかる・できる」授業で児童に学ぶ楽しさと成就感を与える。 【学びの指針1・3・6条】	「わかった」「できた」と達成感や成就感を感じる授業作りが推進されている。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満				
	＜学力向上＞	【努力指標】	問題や弱点の把握と解決の授業実践	これまでの学力調査の分析結果をもとに、各学年において、日々の授業、朝のスキルタイム等で意識的に本校の課題に対して取り組まれている。	A		
	学力調査の分析結果を共通理解し、適切な対応に迅速に取り組む、学力向上をめざす。 【学びの指針11条】	全教職員で問題を把握した上で、本校児童の弱点補強策を学校全体の課題として取り組んでいる。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満				
	＜読書活動の推進＞	【成果指標】	月8冊以上読書する児童数	国語科を中心に、各教科等で積極的に読書活動を取り入れたり児童への呼びかけなどを行った。月8冊以上読書する児童数の割合は、4月は58%、5月は83%、6月は89%であった。また、7月までの平均貸出冊数は62冊	B		
各教科・領域等と関連した読書活動を工夫改善し、児童に望ましい読書習慣を確立する。 【学びの指針8条】	一人の児童の一月の読書量が8冊を超え、市の読書目標年間100冊達成されている	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満					
③ 豊かな人間性の育成	＜親和的な集団づくり＞	【満足度指標】	児童の学校・学級での満足度	児童アンケートにおいて「学校や学級での毎日が楽しい」と答えた児童が96%、「周りの人にやさしくしたり、親切にしたりして」と答えた児童が95%であった。児童は学校生活に対し高い満足度を感じるとともに、親和的な集団作りに貢献している実感をもっていることがうかがえる。	A	<p>今後も、特別活動・児童会活動・委員会活動・クラブ活動等の充実を通して、自尊感情の向上と親和的な集団作りを推進する。</p> <p>道徳教育については、家庭との連携をさらに深めることをめざし、授業公開やホームページでの実践報告などにも力を入れていきたい。</p> <p>情報モラルについては「事例で学ぶNetモラル」等のメディアリテラシーに関する教材を活用した授業について全職員で共通理解をはかり、2学期以降に実践をしていく。</p>	
	特別活動・児童会活動・委員会活動・クラブ活動等を充実し、自尊感情を高め、親和的な集団作りを推進する。	親和的な学級作りが進み、共感的な人間関係が醸成されている。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満				
	＜道徳教育の推進＞	【努力指標】	別様に基づく授業実践率	「十分取り組んでいる」「取り組んでいる」と答えた教職員は100%であり、どの学級も昨年度作成した年間指導計画や全体計画別業に基づいて計画的に実践されている。また、体験活動につなげるなど道徳の時間だけでなく、全教育活動を通して道徳性を育んでいけるような実践が行われている。	A		
	道徳の時間を充実させ、豊かな体験活動とつなげることで、心に響く道徳教育を推進する。	道徳教育年間指導計画(別業)に基づき、計画的に授業実践が行われている。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満				
＜情報モラル教育の推進＞	【成果指標】	年間計画に基づく授業実践率	国語や理科、総合的な学習の時間の授業において、インターネットの活用等、情報教育と関連した学習を行ってきたが、年間計画に基づく授業実践はこれからである。	C			
情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を、教育活動全体の中で学ぶ。	情報教育指導計画にもとづき、計画的に授業実践が行われている。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満					

	自己評価				学校関係者評価	今後の方向性 (改善計画等)
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況		
④ 健やかな体の育成	<よりよい生活習慣の確立>	【満足度指標】	児童の健康や生活への意識	健康な体をつくるために進んで取り組んでいると答えた児童の割合が92%だった。毎週生活チェックをしていることや家庭の協力によるものが大きいと思われる。	B	今後、生活チェックを継続すると共に、学校保健委員会などでも呼びかけ、家庭と連携していく。 今後、授業でトレーニングを取り入れたり、授業以外でも休み時間等を利用して体力作りができるような工夫をしていく。
	児童自身が健康や生活に関心を持ち、よりよい生活習慣や食生活づくりを推進する。 【学びの指針7条】	「生活チェックカード」等に取り組み、児童の自己管理能力を高める。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満			
	<体力の向上>	【努力指標】	課題に基づく授業の創意工夫	体力テストでは、立ち幅跳び、50m走、握力において、県平均を下回っていることから、「力強さ」に関わる運動に課題があると言える。課題の解決に向け、指導法を工夫していると答えた割合が82%で	B	
	体育授業や生涯スポーツの工夫改善で、体育指導の充実を、体力の向上をめざす。	体力テスト結果をもとに、本校の児童の課題解決のための指導を工夫している。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満			
⑤ 家庭・地域との連携	<学校からの情報発信>	【満足度指標】	保護者の満足度	学校からの便りやHPをもとに会話をしたと答えた割合が全体の94%であったことから、学校からの便りやHPをもとに家庭で学校生活の様子について話し合いを持っていることがうかがえる。	A	今後それぞれの立場から各種便りを発行していき学校の情報を発信していく。昨年度よりもHPの更新を進んでおり、閲覧者も増加しているため、今後も継続してHPの更新を随時行っていく。 今後も有効な教育実践を積み重ね、郷土愛の育成に努める。 (教育課程実施の中で、地域教材の精査・位置づけの確認をする)
	各種便りやホームページで積極的に保護者や地域に情報発信し、学校教育への参画を進める。 【学びの指針9・12条】	各種便りやホームページでの情報をもとに家庭でのコミュニケーションが増え、児童の学校生活がわかる。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満			
	<郷土愛の育成>	【満足度指標】	児童の地域の方への感謝の割合	児童アンケートの結果、「今江町・今江小学校が好き」はほぼ100%。スクールソング「WE LOVE 今江」の大合唱、各学年の地域教材・人材による授業やPTA・地域行事への積極的な参加を通して、ふるさとへの誇りや地域の人々への感謝の思いが培われている。	A	
	地域人材の活用と、ふるさと学習の推進、地域行事への積極的参加を促し、郷土愛の育成に努める。 【学びの指針10条】	「今江小学校」や「ふるさと今江町」を誇りに感じている。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満			
<家庭学習の習慣化>	【満足度指標】	学年に応じた家庭学習達成者の割合	「10分×各学年+30分」の達成者数は、34.8%で、「10分×学年」では、94%であった。保護者は88%が家庭学習の習慣が身についていると答えている。家庭学習に取り組む時間に課題が残る。	C	今回の家庭学習週間の取り組みで、各学年の目標時間を教職員が再度共通理解し、児童に時間を意識した計画を立てるように指導する。宿題以外の自学や読書のさらなる呼びかけをしていく。	
家庭学習の習慣化を、保護者と共通の目標を持って達成のために連携をする。 【学びの指針7条】	基本的な生活習慣が確立し、家庭学習が習慣化している。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満				